

OpenAI が提供する対話型 AI の「ChatGPT」が大きな話題を集めている。この ChatGPT によって生成された文章が SNS をはじめ、至る所で数多くシェアされ、知的な文章や自然な言葉遣い等が話題となっている。世界でのユーザー数はリリースからわずか2ヶ月程度で1億人を突破していると言われ、今後のビジネスへの利用拡大等、幅広い分野での活用が期待されている。

2月22日(水)～23日(木・祝)と2日間に渡って開催したハイパーネットワークワークショップ2023もテーマは「AI」だった。ハイパーネットワークワークショップは、ハイパー研の中心となる研究活動として、1993年以来30年間に渡って隔年で開催を続けている。前回の「つくみん産業 AI ハッカソン」に続き、今回も大分県津久見市を舞台とし、[ハイパーネットワークワークショップ2023「つくみん AI アイデアソン～ウィズコロナでの挑戦～GX・BXの世界も目指して！」](#)と題して開催した。津久見の豊かな自然環境を踏まえて、GX (Green Transformation: カーボンニュートラル実現のための取り組みで、環境保護だけでなく経済成長の両立を目指す) と BX (Blue Transformation: 漁業管理や養殖生産、藻場の形成といった海の構造改革で、水産資源の持続可能な世界を目指す) の可能性にも視野を広げ、AI 活用を通して地域振興に取り組む内容とした。おかげさまで、県内外から2日間を通して70名を超える方々に参加いただき、津久見商工会議所と津久見市の協力を得て、つくみんフィールドワークと題した津久見市内企業の現場視察を4コース(マクロ加工工場視察、新津久見鉱山視察、つくみんイルカ島視察、みかん農家視察)配置し、参加者はコースごとに4チームに分かれて、現場視察結果を踏まえた AI 利活用のアイデアソンに臨んだ。2日目の最後に成果を発表し、全てのチームにおいて、現場で目にした状況や耳にした課題を踏まえた AI 活用アイデアがアウトプットされた。先月の AI ビジネスコンテスト「Oita AI Challenge 2023」に引き続き、新たに生み出された AI アイデア「利活用の種」を、AI ビジネスとしてひとつでも多く花開かせていきたい。

テクノロジーの前向きな話題にたくさん接した一方で、大手回転寿司チェーンやうどん店等での来店客による迷惑行為動画が SNS 炎上する事件の報道も相次いだ。こうした迷惑行為の SNS 炎上は今にはじまったことではなく、過去にはバイトテロやバカッターと言ったワードで話題となっている。技術やツール、時代や文化の変化とともに構造を複雑化しながらも、人間によって繰り返され続けている深刻な社会問題のひとつである。長年、情報モラルの普及啓発や情報リテラシーの向上に取り組む我々にとっては無念を感じざるを得ないニュースであった。[情報モラル啓発事業](#)もちょうど今月の24日大分開催で全10回のセミナーを終了したところだが、こうしたニュースがなくならない限り、私たちはさまざまな変容を受け入れながら、より効果的なアプローチに取り組みながら、普及啓発活動を、粘り強く継続していくしかないと感じた。

月末の28日は、[イクボスセミナー](#)をオンライン開催した。イクボスとは「育児」と「ボス(上司)」を組み合わせた造語であるが、子育てだけではなく、介護、プライベートの充実と、仕事の業績や成果をあげることの両方を応援する上司や職場環境を増やしていくための普及啓発である。大分県福祉保健部こども未来課の施策として実施している。今回は、組織における働き方改革の進め方や部下のマネジメント方法等、上司の立場に向けた内容を上司編として伝えた。来月7日には、部下編の開催が控えており、上司や職場が変わるのを待つのではなく、自ら動きアクションをとっていく方法を伝えていく。少子高齢化で人手不足が深刻となっていく現状において、AI 等のテクノロジーの活用と同時に、欠くことのできない視点であり、挑戦している。コロナ禍以前より、テレワークやワーケーションを取り入れ、働き方の多様性にもトライしてるハイパー研としては、このイクボス普及も一歩先を実践しながら、社会に向けて意義ある展開をしていきたい。